

平成 29 年度 第 8 回国府地域振興会議

日時：平成 30 年 2 月 14 日（水）
13：30～
場所：国府町コミュニティセンター

次 第

1 開 会

2 会長あいさつ

3 報告事項

(1) 国府町コミュニティセンター等の指定管理者の指定について …… 資料 1 (P1)

4 協議事項

(1) 新市域振興ビジョンの改訂について …………… 資料 2 (P2～7)

(2) 特定課題提案案件について …………… 資料 3 (P8)

5 その他

6 閉 会

名称	氏名	選出区分	備考
国府地域振興会議委員	◎森原 喜久	1号	大茅地区振興協議会会長
	山崎 豪太郎	1号	まちづくり・いきいき成器の会会長
	山田 準二	1号	谷地区活性化協議会会長
	田中 道春	1号	宮下地区まちづくり協議会会長
	正木 直志	1号	あおば地区協働まちづくり会会長
	○森田 わか子	2号	鳥取市東商工会理事
	木下 敏明	2号	元町議会議員
	桑原 英樹	2号	元民生委員
	安木 秀明	3号	公募
	岸本 武司	3号	公募
	山根 玲子	3号	公募
	澤田 寛子	3号	公募

◎会長 ○副会長

順不同:敬称略

事務局	安本 哲哉	支所長
	小林 幸一	副支所長(兼)地域振興課長(併)教委分室長
	井上 憲孝	市民福祉課長
	前田 明博	産業建設課長
	岸田 和範	地域振興課課長補佐

国府町コミュニティセンター等の指定管理者の指定について

平成29年12月鳥取市議会において下記のとおり議決され、指定管理者が指定されました。

1 公の施設名

鳥取市国府町コミュニティセンター
鳥取市国府町農村勤労福祉センタープール

2 指定管理期間

平成30年4月1日から平成33年3月31日まで（3年間）

3 指定管理者

（住 所）鳥取市西町二丁目311番地（福祉文化会館1階）
（団 体 名）一般財団法人鳥取市教育福祉振興会
（代表者名）理事長 中 村 英 夫

○指定管理者制度導入の目的

合併後も直営となっている体育施設等について、民間の活力を取り入れ、市民サービスの向上を図るため、平成30年度から指定管理者制度を導入します。

○指定管理者が行う業務

- ・施設、設備の維持管理に関する業務
- ・利用の許可に関する業務

○参考：鳥取市教育福祉振興会が指定管理を受けている主な市の施設

鳥取市民体育館、武道館、千代テニス場、城北テニス場、勤労青少年ホーム、文化センター、市民会館

問い合わせ先

鳥取市教育委員会事務局
○生涯学習・スポーツ課
電話 20-3362
○国府町分室
電話 39-0563

新市域振興ビジョン改訂の考え方について

1. 概要

「新市域振興ビジョン」は、新市域の 10 年先を見据えた地域の特性を生かしたまちづくりの方向性を示すものとして平成 26 年 8 月に策定され、重点的に取り組む必要性のある項目については「推進計画」を作成し、計画的に事業を推進しているところです。

推進期間の短期(26～29年度)が経過するにあたり、平成 28 年 4 月に策定された「第 10 次鳥取市総合計画」との整合性を図ることにより、当ビジョンの改訂を行うこととします。

2. 見直し作業の内容

(1) ①ビジョン第 2 編「5. 地域別の現状と課題、目指す将来像」(P 15～31)、②参考資料「1. 地域の歴史、特性、資源」(P 81～88)、③その他必要な箇所における修正。

(2) 推進計画の見直しについては、平成 30 年 2 月頃を予定しています。

(中・長期事業を見据えての変更を予定)

3. 今後のスケジュール

	平成 29 年度					平成 30 年度				
	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
の改訂 ビジョン	依頼	作業期間	地域振興 会議協議	報告	PT 協議	地域振興 会議報告	PT 協議	推進本部 会開催	公表 地域振興会議報告	
の見直し 推進計画	地域振興会議での報告(年 2 回程度)			依頼	報告	地域振興会議報告	公表			

◆国府町

① 観光資源・特産品を活かしたまちづくり

日本の滝百選の「雨滝」、中国地方最大級の規模を誇るロックフィル形式※の「殿ダム（因幡万葉湖）」、また、万葉文化のかおり高い貴重な史跡・文化財などが**多数あるほか、豊かな自然が作りあげた貴重なジオサイトが多数存在し、**これらの観光資源の魅力向上と活用を図っていくことが重要です。

観光素材の磨き上げ、観光ルートの設定と**受入れ体制の整備**、新たな特産品開発など、地域と関係団体、行政が一体となった取組がより一層必要です。

① 観光資源・特産品を活かしたまちづくり

日本の滝百選の「雨滝」、中国地方最大級の規模を誇るロックフィル形式※の「殿ダム（因幡万葉湖）」、また、万葉文化のかおり高い貴重な史跡・文化財などの観光資源があります。本町の活性化のためにも、これらの観光資源の魅力向上、集客力アップを図っていくことが重要です。

観光素材の磨き上げ、観光ルートの設定、いなば国府ガイドクラブ等の観光ボランティアの育成、新たな特産品開発など、地域と関係団体、行政が一体となった取組がより一層必要です。

② 地域農業の振興

中山間地域の高齢化、人口減少などにより耕作放棄地が**増加し、**農業・農村の衰退が大きな課題となっています。**加えて、シカやイノシシといった有害鳥獣による農作物被害が拡大し、耕作放棄などに一層拍車をかけています。**

農地利活用率の向上対策として、**農業者、農業関係団体と連携し、人・農地プランの推進により農地利用促進と担い手育成を図るとともに、広域的な鳥獣被害対策を講じるなど、より地域が連携した取組が必要**です。

② 農地保全と農業振興

中山間地域の高齢化、人口減少などにより耕作放棄地が発生し、農業・農村の衰退が大きな課題となっています。

農地利活用率の向上対策として、国府町担い手協議会や鳥取市農業公社国府支所、鳥取いなば農協など関係団体と連携し、担い手農業者への農地斡旋や、新規就農希望者への技術習得・定住支援による新たな担い手の育成に取り組むことが必要です。

③ 中山間地域の振興

中山間地域では居住人口の減少や少子・高齢化が進行しており、日常生活における利便性の低下が課題となっています。

地域コミュニティのつながりの重要性を再認識し、将来に向けた福祉を踏まえた自治組織の強化がより一層必要です。

県外からのUJターン等の移住希望者に対し、本町における空き家等の情報提供や田舎暮らしが体験できる環境の整備が必要です。

③ 自治組織の強化

平成25年度に本町で集落維持ができず、一つの集落が自治会組織を解散しました。山間地域における過疎化現象は、深刻かつ喫緊の課題です。

住民生活の基盤である自治会の役割はますます重要となっていますが、その加入率は減少傾向にあります。地域の特性を活かしたまちづくりを進めるためにも、自治会と本市が一体となって、自治組織の強化と活性化を図る必要があります。

④ 市有施設の適切かつ効率的な管理・活用・処分

旧成器・大茅小学校、地区公民館、旧総合支所など、建築年が経過し老朽化した施設を多く抱えている状況にあり、公共施設ファシリティマネジメント*の推進を図りながら、市有施設を適切かつ効率的に管理、活用、処分を行っていくことが必要です。

④ 市有財産の適切な管理と有効活用

建築年が経過し老朽化した施設を多く抱えている状況において、公共施設ファシリティマネジメント*の推進を図りながら、市有施設を適切かつ効率的に維持管理を行っていくことが重要です。

本町には、旧国府町総合支所をはじめとする遊休財産の活用・処分や旧成器・大茅小学校などの有効利用について、地域住民の意見・要望も参考にしながら検討していく必要があります。

⑤ 安全・安心なまちづくり

頻発する自然災害から生命を守り、被害を軽減するため、防災・減災体制を強化するとともに、「自助」「共助」「公助」が連携し、一体となって機能する災害に強いまちづくりを進めることが必要です。

身近な市民生活に起因するごみのポイ捨て、不法投棄防止に取り組むこと必要です。豊かな自然を次世代に引き継ぐため、自然保護意識の高揚や保全活動の展開を図ることが必要です。

⑤ 環境対策

山間地域は美しい自然環境を有し、広大な森林は水源かん養*等の重要な役割を担っています。しかし、近年、廃棄物の不法投棄と思われる事象が相次いで発生しました。不法投棄は、自然環境や住民生活を脅かす深刻な問題です。未然防止と早期発見が重要であり、地域住民と一体となって、パトロールの実施など監視体制を強化していくことが必要です。

⑥ 地域伝統芸能や文化・歴史遺産の保存・継承・活用

本町における因幡の傘踊りなどの地域伝統芸能や、旧美敷水源地水道施設など貴重な文化・歴史遺産の保存、継承と積極的な活用による「万葉のふるさと 国府」としてのまちづくりを進めることが一層求められています。

安全に安心して暮らせる、住みたいまち・住んで良かったといわれるまち
「万葉のふるさと 国府」

本町は、かつて因幡国の国府が置かれ、古くから政治・経済・文化の中心地として栄えてきました。また、風光明媚で四季折々の豊かで美しい自然にも恵まれています。

地域住民が心豊かに生活していくためには、これまで脈々と息づいてきた因幡の傘踊り・麒麟獅子舞などの伝統芸能や、貴重な文化・歴史遺産を着実に継承するとともに、恵まれた自然環境を保全・活用しながら、さまざまな取組を進めていくことが必要です。

また、新たな地域資源である、**殿ダムや旧美敷水源地を活用した観光振興**の取組も重要です。

活気あふれる地域の実現に向かい、次世代へ引き継がれるよう地域住民と行政が連携しながら、一体となって地域振興に取組み、安全に安心して暮らせる、住みたいまち・住んで良かったといわれるまち「万葉のふるさと 国府」をめざします。

本町は、かつて因幡国の国府が置かれ、古くから政治・経済・文化の中心地として栄えてきました。また、風光明媚で四季折々の豊かで美しい自然にも恵まれています。

地域住民が心豊かに生活していくためには、これまで脈々と息づいてきた因幡の傘踊り・麒麟獅子舞などの伝統芸能や、貴重な文化・歴史遺産を着実に継承するとともに、恵まれた自然環境を保全・活用しながら、さまざまな取組を進めていくことが必要です。

また、新たな地域資源となった、**殿ダムを起爆剤とした観光振興や特産品開発**の取組も重要です。

活気あふれる地域の実現に向かい、次世代へ引き継がれるよう地域住民と行政が連携しながら、一体となって地域振興に取り組み、安全に安心して暮らせる、住みたいまち・住んで良かったといわれるまち「万葉のふるさと 国府」をめざします。

1. 地域の歴史、特性、資源

◆ 国府町

● 歴史

本町には、数多くの文化財、史跡が点在し、「万葉のふるさと」といわれています。昔から稲作農耕文化がひらけ、大化の改新後は因幡国の国府が置かれました。因幡一宮宇倍神社の社壇が営まれ、国分寺や法華寺が建立されるなど、中世の終わりごろまで、この地方の政治・経済・文化の中心地として栄えてきました。

因幡国には、かつて万葉集の編者とされている大伴家持おおとものかもち、小倉百人一首ありわらので有名な在原行平ゆきひら、また鎌倉幕府創設に関わった大江広元おおえひろもとなどの有名な人たちが国守として赴任しています。

このような時代背景から、昭和32年1月1日宇倍野村と大成村が合併した際、町名を因幡の国府にちなんで「国府町」と称しました。

● 特性

①「万葉のふるさと」の地として、因幡国庁跡・梶山古墳・鳥取藩主池田家墓所など、貴重な史跡・文化財が数多く点在しています。

②本町東部地域には、上地・雨滝・河合谷高原など山陰海岸ジオパークのジオサイトが多数存在し、豊かな自然環境を有しています。

③鳥取県を代表する伝統芸能で、長柄の傘を振り回して踊る勇壮で躍動感あふれる「因幡の傘踊り」（鳥取県無形民俗文化財指定）の発祥の地として、全国に発信しています。

④平成24年3月に完成した「殿ダム」は、ロックフィル形式*の多目的ダムで、ダム湖は「因幡万葉湖」と命名され、周辺には広場などを整備し、市民の憩いの場となっています。

⑤農業は稲作が中心であり、傾斜地を利用した梨やほ場を利用した巨峰ぶどう、白ねぎ、水稲種子などの栽培が盛んです。

⑥鳥取地域に隣接した市街化区域内は人口が増加し、山間地域では過疎化が進んでいます。

● 資源

区分	主なもの
特産品	巨峰ぶどう、梨、吉野そば、白ねぎ、兔ッ兔ワイン、雨滝豆腐、万葉美人米
観光	雨滝、河合谷高原、栃本廃寺跡、殿ダム（因幡万葉湖）、学行院、岡益の石堂、梶山古墳、旧美歎水源地、因幡万葉歴史館、因幡国庁跡、宇倍神社、鳥取藩主池田家墓所、大伴家持歌碑
イベント	国府マ스つりフェスタ、因幡の傘踊りの祭典、万葉フェスティバル（万葉集朗唱の会・大伴家持短歌大賞）、殿ダム因幡万葉湖ウォーキング大会、万葉ウォークラリー大会、「雨滝」滝開き祭、「扇ノ山」山開き祭、殿ダム野外音楽祭、大茅ホテルの里まつり、納涼サマーコンサート in 雨滝

参考資料

1. 地域の歴史、特性、資源

◆ 国府町

● 歴史

本町には、数多くの文化財、史跡が点在し、「万葉のふるさと」といわれています。昔から稲作農耕文化がひらけ、大化の改新後は因幡国の国府が置られました。因幡一宮宇倍神社の社壇が営まれ、国分寺や法花寺が建立されるなど、中世の終わりごろまで、この地方の政治・経済・文化の中心地として栄えてきました。

因幡国には、かつて万葉集の編者とされている大伴家持おおとものやかもち、小倉百人一首ありわらので有名な在原行平ゆきひら、また鎌倉幕府創設に関わった大江広元おおえひろもとなどの有名な人たちが国守として赴任しています。

このような時代背景から、昭和32年1月1日宇倍野村と大成村が合併した際、町名を因幡の国府にちなんで「国府町」と称しました。

● 特性

①「万葉のふるさと」の地として、因幡国庁跡・梶山古墳・鳥取藩主池田家墓所など、貴重な史跡・文化財が数多く点在しています。

②上地・雨滝周辺は、平成22年10月に世界ジオパーク*への加盟が認定された山陰海岸ジオパークの「扇ノ山ジオパークエリア」として位置づけられるなど、豊かな自然環境を有しています。

③鳥取県を代表する伝統芸能で、長柄の傘を振り回して踊る勇壮で躍動感あふれる「因幡の傘踊り」（鳥取県無形民俗文化財指定）の発祥の地として、全国に発信しています。

④平成24年3月に完成した「殿ダム」は、治水はもとより、河川環境保全、工業用水・水道用水の確保、発電などを目的とするロックフィル形式*のダムで、国土交通省の直轄事業として建設されました。

⑤農業は米作栽培が中心であり、傾斜地を利用した梨やほ場を利用した巨峰ぶどう、白ねぎ、水稻種子などの栽培が盛んです。

⑥鳥取地域の市街地に隣接しているため、市街化区域内は住宅やアパートなどの建築により人口は増加してきました。その一方で、山間地の過疎化が進んでいます。

● 資源

区分	主なもの
特産品	巨峰ぶどう、二十世紀梨、吉野そば、白ねぎ、いちじく加工品
観光	雨滝、朽本廃寺跡、殿ダム、学行院、岡益の石堂、梶山古墳、旧美歎水源地、因幡万葉歴史館、因幡国庁跡、宇倍神社、鳥取藩主池田家墓所、大伴家持歌碑
イベント	マスつりフェスタ、因幡の傘踊りの祭典、万葉フェスティバル

国府町

資料3

国府地域振興会議特定課題提案案件

提案委員	議題名	提案理由	課題の内容
岸本武司	雨滝「布引の滝」の水で雨滝名水を	雨滝地域は「因伯の名水」とされているが、何処の水を指しているのかわからない。県内外から水を求めておいでになる観光客のためにも、大昔から岩の間より年中水量・水温ともに変わらず湧き出している「布引の滝」の水を活用し、本当の「名水」としてアピールすべきと思う。	湧き出している岩間から直接水を採取することで雑菌の侵入を防ぐことができる。 因伯の名水の一つとして、雨滝を訪れる人々に自由に水を持ち帰ってもらえるような施設を作り、「日本の滝100選」「雨滝の名水」をセットにして新たな魅力ある国府の観光地として盛り上げていきたい。
森原喜久	因幡万葉歴史館の抜本的な修繕を	因幡万葉歴史館は建築から24年経過し、抜本的に修繕する時期が来ているのではないかと。	利用者から、建物内は隙間風が吹く、寒いなど評判がよくないと聞いている。また、床下に水がたまるとも聞いた。 平成30年1月26日の新聞に、地域連携DMO(観光地域づくり法人)「麒麟のまち観光局」が設立された記事が載っていたが、教育的施設である因幡万葉歴史館は、観光ビジネスの中核的な施設の一つでもあると思う。施設状況を担当課に確認して、修繕対応してほしい。